



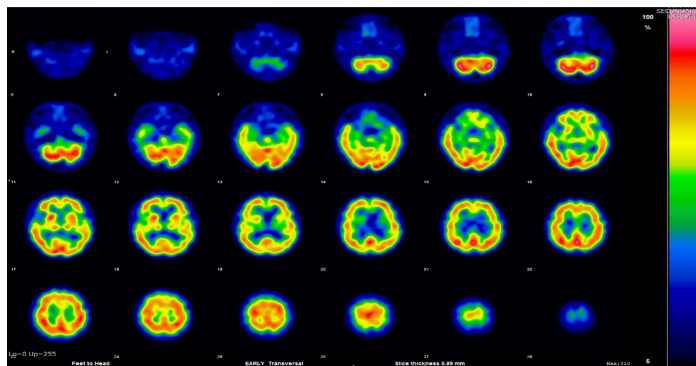
核医学検査とは、放射線を放出する医薬品（放射性医薬品）を用いる検査法です。体内に投与された薬の分布を画像化、数値化することで血流や代謝などの機能画像を得ることができます。検査に使用する薬は微量で半減期が短いため、被ばくも少なく苦痛もほとんどない低侵襲の検査です。

最近の社会的な問題の一つに認知症があげられます。高齢者の急増に伴い著しく増加していて現在では約500万人に達しているのではないかと推定されています。

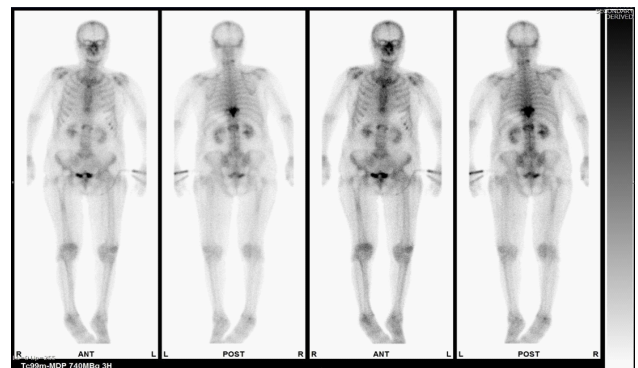
後期高齢者がピークとなる2025年には約700万人を超え、高齢者の4～5人に1人が認知症という推計もなされています。

現在、認知症を治療できる根本治療薬はないのですが、進行抑制できる治療薬はあります。その意味で早期診断、鑑別が最も重要となっています。

核医学検査での脳血流画像はCT、MRI検査で脳の形態画像（委縮の程度）を検査するより早い段階で認知症を診断することができます。ゆえに早期からの治療開始に貢献している検査法といえます。



脳血流イメージング



骨代謝イメージング